

恵迪寮同窓会

2019 年 7 月 17 日 発行

VOL. 16

発行：旭川恵迪会 事務局

道北・旭川恵迪会 会報

夏日の 7 月 6 日、第 16 回道北・旭川恵迪会寮歌祭が、旭川トーヨーホテルで午後 6 時から開催され、昭和 21 年入寮から平成 12 年入寮の 14 名の参加がありました。また、恵迪寮同窓会から吉原監事、北海道恵迪寮同窓会から千川副会長、大谷常任幹事が来賓として出席いただきました。

開会に先立って、昨年 12 月に逝去された元旭山動物園園長、菅野浩（昭和 30 年入寮）様に黙祷を捧げました。菅野さんは、第 6 回寮歌祭・第 1 回開識社で「旭川文学資料館の第 1 歩」を講演されました。

また、北海道同窓会の大谷幹事から、「現恵迪寮（3 代目）の改修のための募金（北大フロンティア基金）」について、募金の趣旨、募金期間を 1 年間延長していることなど募金協力の訴えがありました。

今年は、昭和 37 年入寮の田上龍一さんが新たに参加されました。恒例のスピーチでは、寮生活の思い出、健康づくりのこと、ボランティアのこと、寮歌祭に参加した動機、近況など、大いに語り合いました。

その後は、それぞれの発声で、春雨に濡る、蒼空高く翔らむと、魔神の呪い・・・と 10 数曲を歌い、最後は「都ぞ弥生」で締めて、来年 7 月 4 日の再会を誓いました。

「寮歌は放歌高吟、しかし、一人しみじみ歌うのも味わいがある」との二川義昭（26 年入寮）さんのスピーチに、寮歌の力を認識しました。

